

「建築物に木材を使うと、どんな良いことがあるの？」

— 「建築物への木材利用に係る評価ガイドンス」のご紹介 —

建築物の木造化・内装木質化を検討したものの、組織内や金融機関などから「建築物に木材を使うとどのような良いことがあるのか」などと問われて、十分な理解を得られなかったことはありませんか？

これに対して、林野庁が作成した『**建築物への木材利用に係る評価ガイドンス**』では、建築物への木材利用の効果を整理し、各効果の評価項目・評価方法を示しています。

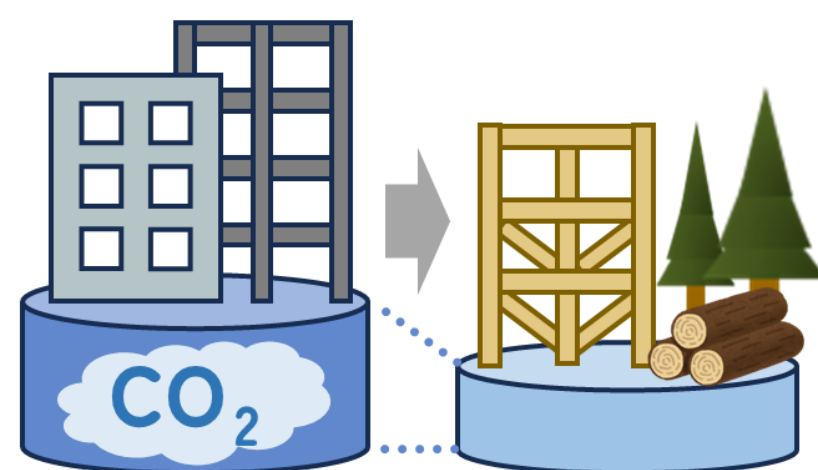
本ガイドンスを使えば、誰でも建築物への木材利用の意義を体系立てて説明できます。是非ご活用ください。



① 木材利用は、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献します

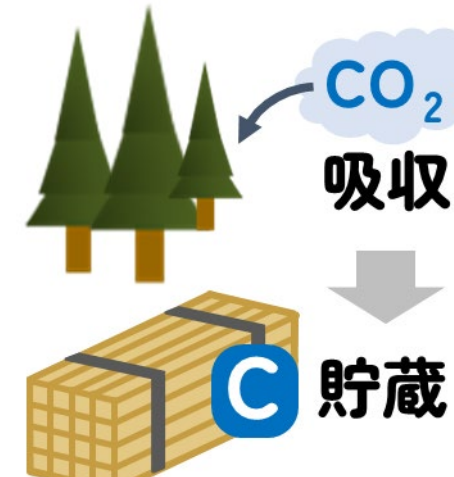
建築物のエンボディドカーボンの削減に貢献します

- 木材は、製造時のCO₂排出量が鉄やコンクリート等よりも比較的少ないため、木材を使えば、建築物のライフサイクル全体のうち、資材製造段階などの排出量（エンボディドカーボン）を削減できます。



建築物に炭素を貯蔵します

- 木材は、森林が吸収したCO₂を炭素として貯蔵するため、建築物に使うことで、長期間にわたり炭素を貯蔵できます。



② 木材利用は、持続可能な資源の利用に貢献します

「デュー・デリジェンス」の実施により、森林への悪影響等を回避できます

- 利用する木材が、持続可能な方法で生産されたことを確認（デュー・デリジェンスを実施）することで、森林の違法伐採や森林破壊などのリスクを回避できます。



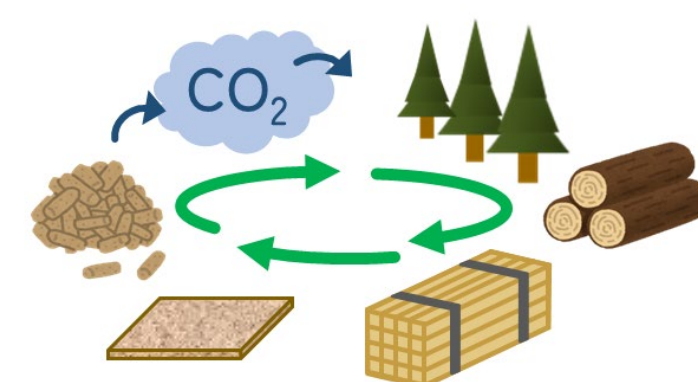
森林資源の活用により、地域経済の活性化に貢献します

- 国内・地域で生産された木材を使えば、林業・木材産業の発展を通じて、地域の社会経済の維持・活性化に貢献できます。



サーキュラーエコノミー（循環経済）の実現に貢献します

- 木材は、①再生可能な天然素材であり、②CO₂排出削減と炭素貯蔵に貢献し、③バイオマスエネルギーとしても利用可能な資源です。



③ 木材利用は、快適な空間の実現に貢献します

内装木質化により、利用者の心身面、生産性などに良好な効果をもたらします

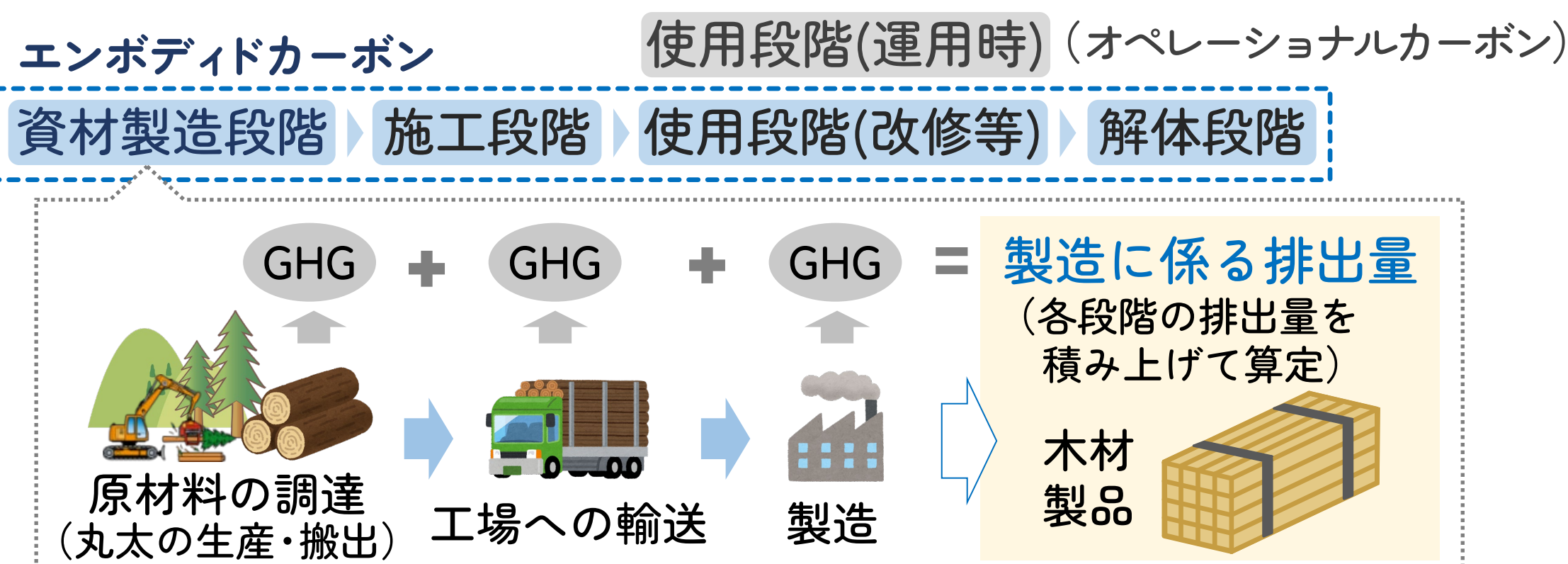
- 建築物の内装を木質化することは、心理面、身体面、衛生面、学習・生育面、生産性などに良好な効果があることが確認されています。



評価分野 1 カーボンニュートラルへの貢献

評価項目 ① エンボディドカーボンの削減

- ライフサイクルアセスメント(LCA)により算定した、建築物に利用した木材の製品製造に係る温室効果ガス(GHG)の排出量を示します。



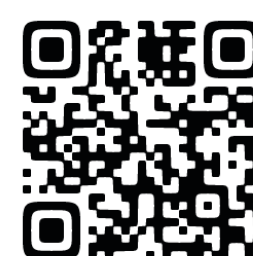
評価項目 ② 炭素の貯蔵

- 林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」に基づき炭素貯蔵量を示します。

炭素貯蔵量 [t-CO₂]

$$= \text{材積} [\text{m}^3] \times \text{密度} [\text{t/m}^3] \times \text{炭素含有率} \times \frac{44}{12} \text{ (換算係数)}$$

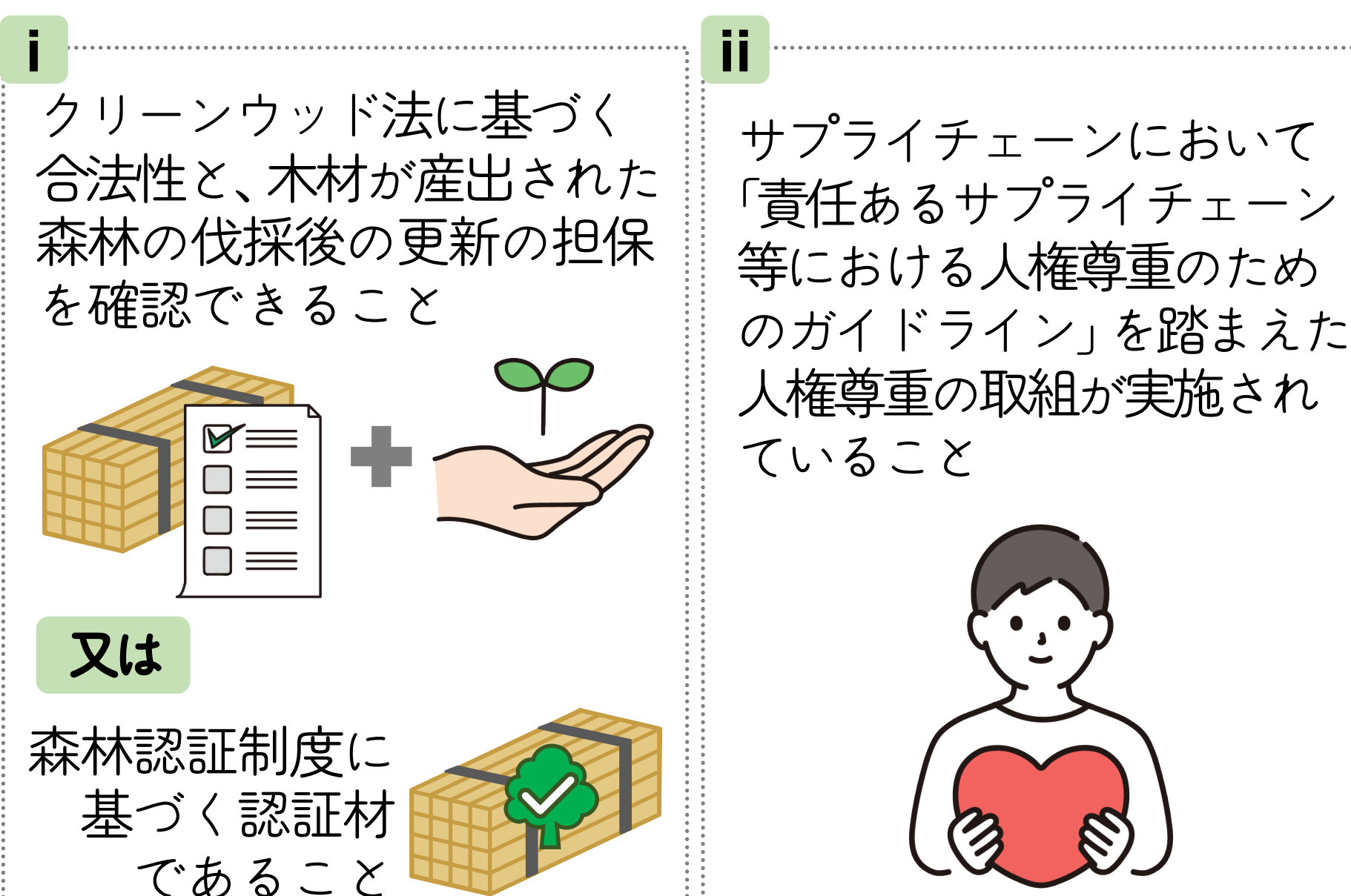
ガイドラインの詳細はこちらから ▶
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/mieruka.html>



評価分野 2 持続可能な資源の利用

評価項目 ① 持続可能な木材の調達 (デュー・デリジェンスの実施)

- 木材について、以下を確認したことを示します。



評価項目 ② 森林資源の活用による地域貢献

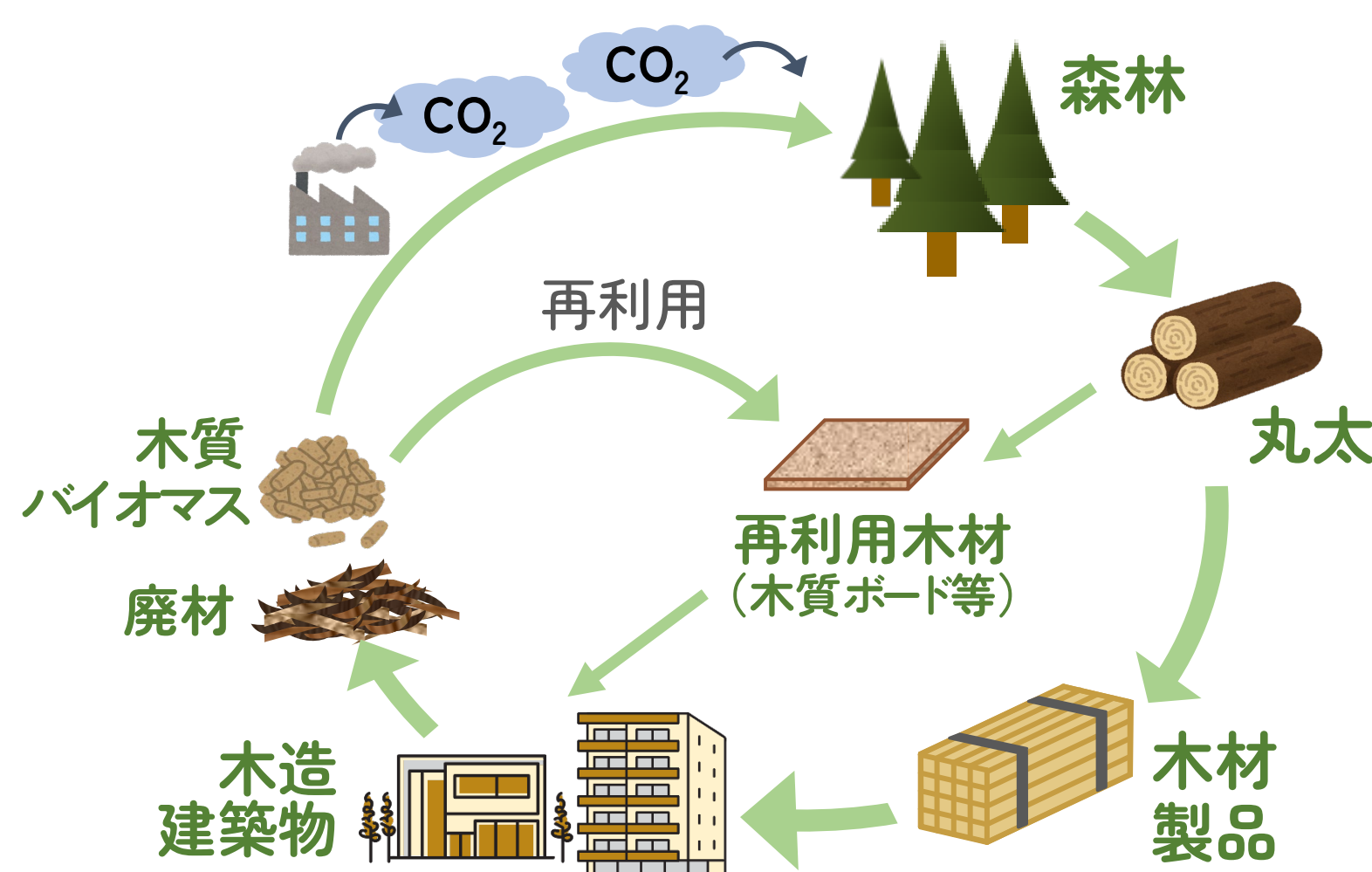
- 地域産材・国産材の利用状況を示します。
- 地域産材の活用を目的とした、建築物木材利用促進協定等を締結していることを示します。
- 木材利用による地域経済への波及効果を定量的に示します。



評価項目 ③ サーキュラーエコノミーへの貢献

- サーキュラーエコノミー(循環経済)の観点から、木材は再生可能資源として評価されるものであることを示します。
- 循環性を意識した取組(※)の実施について示します。

(※) ・木材利用による再生不可能な資源の利用削減
 ・再利用木材(木質ボード等)の利用
 ・解体時の環境負荷を低減する設計の採用 など



評価分野 3 快適空間の実現

評価項目 内装木質化による心身面、生産性等への効果

- 建築物の用途等に応じて、訴求度が高い内装木質化の効果を示します。

